

資料2
福岡県内4大学推奨 薬局実務実習スケジュール
●薬局実習

項目	観点	アウトカム	実習内容(例)	評価	概略評価(例)											備考						
					1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	6週目	7週目	8週目	9週目	10週目	11週目							
A:保険調剤ができる (医薬品の調製)	処方せんに基づく医薬品の調製	監査結果に基づき適正な医薬品調製を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 実際の処方せん調剤業務を行いながら以下の事を体験する。 <ul style="list-style-type: none"> ○処方せんの記載から正しく医薬品、後発品の選択を体験する。 ○実際の計数・計量調剤業務を体験する。(散剤、水剤、軟膏、一包化、錠剤等の粉砕、適切な賦形等調剤業務をその業務の理由を考えながら学習する。) ○特別な注意を要する医薬品の調剤と適切な取り扱いを体験する。 ○調製を終えた薬剤の監査を体験する。 薬局で取り扱う注射剤の調剤を体験する。 施設で処方される医薬品に関し、配合変化を確認しながらその機序と回避方法を理解する。 在宅医療での薬局での注射剤調剤を体験する。 	概略評価 (4段階)	1	単純な処方箋(医薬品2〜3種類)について計数・計量調剤ができる	○	●	●	●												
					2	実習施設内で取り扱うすべての処方箋についてある程度スムーズな流れで計数・計量調剤ができる。			○	●	●	●										
					3	患者の病態を考慮した調剤上の工夫を提案し、複雑な処方箋の計数・計量調剤が何度も同じように素早く正確にできる					○	●	●	●	●	●	●					
					4	薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理を、業務の流れを妨げず適切に行える。														○		
	医薬品の供給と管理	適切な医薬品の供給と管理を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 調剤において特別な注意を要する医薬品を確認し、その適切な取り扱いを体験する。 調剤業務の中で調製された薬剤の監査を体験する。 薬局で取り扱う医薬品を把握し、発注や補充、棚卸等の業務の中で適切な在庫管理を体験する。 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の管理や補充、伝票・帳簿処理等を体験する。 	概略評価 (4段階)	1	実習施設での基本的な医薬品の供給および管理ができる。	○	●	●	●												
					2	緊急時を含めて、医薬品を適切に供給し、麻薬・向精神薬等についても正しく保管できる。			○	●	●	●										
					3	医薬品の供給・管理業務の意義や目的をきちんと認識し、業務に適切に反映できる。				○	●	●	●	●	●	●						
					4	薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理を、業務の流れを妨げず適切に行える。													○			
B:保険調剤ができる (処方監査・医療安全)	処方監査と疑義照会	処方監査と疑義照会を実践する。処方監査:患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。疑義照会:必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。最終的には、医師の処方行動に変容をもたらす。	<ul style="list-style-type: none"> 実際の薬局処方せんを教材にして各記載事項の意義を確認しながら、処方せん監査を実施し、その妥当性を判断する。 調剤業務の中で、薬歴やお薬手帳、患者への問診などから判断して適切でないと思われる処方について疑義照会を体験する。 	概略評価 (4段階)	1	単純な処方箋(医薬品2〜3種類)および調剤薬の監査を行い、リスク回避のための対応方法を実施できる。	○	○	●	●	●	●										
					2	実習施設内で扱うすべての処方箋と調剤薬に関して医薬品情報を基に適切に監査ができ、必要に応じて疑義照会を実施できる。				○	●	●	●	●	●						疑義照会については指導薬剤師の指導の下に行う	
					3	医薬品情報および患者情報をもとに、処方内容を監査できる医師や医療スタッフと患者に関する情報を共有(疑義照会を含む)できる。								○	●	●	●	●			疑義照会については指導薬剤師の指導の下に行う	
					4	患者の病態およびナラティブ、治療の科学的根拠に基づいて、処方の妥当性を判断できる。													○			
	安全管理	当該施設における安全管理を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 施設で実施されている医薬品および医薬品以外に関連した安全管理体制、手順書等を確認し、その仕組みを理解する。 実習期間を通して安全管理を意識して薬剤師業務を実践する。 実践のなかで体験したインシデント、アクシデントや蓄積されたインシデント、アクシデントなどをもとに、その対策について討議あるいは考察し、提案する。 施設内の感染源と対策を理解し、実習期間を通して実施する 	概略評価 (4段階)	1	実習施設における医療安全の基本を確認し、遵守できる	○	○	●	●	●	●										
					2	医療安全に配慮した業務を実践できる				○	●	●	●	●	●							
					3	安全管理指針に従った一連の監査業務等を自らの判断で行うことができる。									○	●	●	●	●			
					4	医療安全の見地から適切な処方設計等を提案できる。													○			
C:保険調剤ができる (服薬指導)	患者・薬局者対応、情報提供・教育	患者からの情報収集、情報提供及び患者教育を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 処方せん調剤の患者、薬局者対応を初回面談から服薬指導、それらの記録までを実際の患者・薬局者で継続的に体験する。(指導薬剤師監督の下、医療者として相応しい態度で患者情報を収集し、得られた情報を活かした患者対応、指導、情報提供とその記録を行う。) (「代表的な疾患」を病院、薬局を通して全て体験すること。実習開始から早い段階で行い、毎日レベルアップしながら継続して学習する。) 施設内で汎用される医療用語や略語を確認・理解する。 	概略評価 (4段階)	1	服薬指導を行うために必要な患者情報を収集できる。	○	○	○	●	●	●	●									
					2	患者面談で収集した代表的な疾患の薬物治療に関する事項に応じて、資料を用いて説明できる。				○	●	●	●	●	●							
					3	過去の記録、最新の医薬品情報と患者との面談から収集した情報を基に治療上の問題点を把握できる。								○	●	●	●	●	●			
					4	個々の患者の病状経過を踏まえた薬物療法を分かり易く説明できる。治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案できる。													○			
	患者情報の把握	患者情報を適切に収集・評価・共有し、患者状態を正確に把握して、薬物療法に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> 処方せん調剤、在宅医療、一般用医薬品販売などにおいて患者や薬局者個々の情報を的確に収集・整理し、薬物療法全般に活かす体験をする。 問診や得られる検査値等から患者の状態を把握し適切な薬物的管理を考察する。 	概略評価 (4段階)	1	収集した情報と服薬指導した内容を薬歴等に記入できる。	○	○	○	●	●	●	●									
					2	収集した患者や医薬品に関する情報に基づいた服薬指導を行うことができる。活用できた患者情報を他の薬剤師と共有することができる。				○	●	●	●	●	●							
					3	患者の問題点に対する解決策に基づき、患者が理解できるように指導できる病態の変化に応じた処方薬変更の説明と継続的な指導を実践できる。									○	●	●	●	●			
					4	個々の患者の病状経過を踏まえた薬物療法を分かり易く説明できる。治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案できる。													○			
	医薬品情報の収集と評価・活用	薬物療法の評価等に必要情報を収集し、得た情報及び情報源を批判的に評価し、効果的に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 施設での医薬品関連情報の情報源と収集方法を理解し、実際の患者、薬局者、施設スタッフに適切な医薬品情報を作成して提供する。 新薬や薬効別、後発品などの薬局で役に立つ医薬品情報をまとめる。 医師からの問い合わせに適切な医薬品情報を作成して提供する。 	概略評価 (4段階)	1	代表的な疾患の治療薬に関する情報(用法・用量、有効性、安全性、使用上の注意等)の収集と加工ができる。		○	○	●	●	●	●									
					2	代表的な疾患に関する治療薬の効果および副作用・特に注意すべき事項等を概ね指導できる。							○	○	●	●	●					
					3	病態の変化に応じた処方薬変更の説明と継続的な指導を実践できる。									○	○	●	●	●			
					4	個々の患者の病状経過を踏まえた薬物療法を分かり易く説明できる。治療上の問題点を抽出・解析し、対応策を患者に提案できる。													○			

